

学則 別表第2 工芸学部（美術工芸学科）の授業科目の種類、単位数等（第25条、第27条及び第48条関係）

① 基礎教育科目

科目区分	授業科目の名称	単位数			履修単位
		必修	選択	自由	
教養科目	歴史学		2		22 単位以上を 修得のこと
	森林学概論		2		
	美学		2		
	技芸と文学		2		
	栄養学入門		2		
	生涯学習論		2		
	生活と法律		2		
	博物館概論		2		
	生物と環境		2		
	人と農業		2		
	科学と芸術		2		
	工芸と経済		2		
	伝統と学び		2		
	哲学		2		
	教育学		2		
	世界文化遺産論		2		
	宗教史		2		
	地域社会論		2		
	人間関係の科学		2		
	人間関係の心理臨床		2		
	表現技術論		2		
	初年次演習		2		
小計 (22 科目)		0	44	0	
教養教育科目	日本工芸美術史	2			必修 4 単位を含む 8 単位以上を 修得のこと
	京都学	2			
	伝統芸術入門 I	1			
	伝統芸術入門 II	1			
	伝統芸術展開 I	1			
	伝統芸術展開 II	1			
	日本文化史	2			
	京都学演習 I	2			
	京都学演習 II	2			
小計 (9 科目)	4	10	0		
コミュニケーション科目	日本語表現法		1		必修 2 単位を含む 6 単位以上を 修得のこと
	英会話 I	1			
	美術工芸英語	1			
	英会話 II	1			
	英語コミュニケーション	1			
	情報基礎演習	2			
	総合コミュニケーション	1			
小計 (7 科目)	2	6	0		
キャリア形成科目	しごと論 I		2		6 単位以上を修 得のこと
	しごと論 II		2		
	社会活動 I		1		
	社会活動 II		1		
	インターンシップ		2		
	メディアリテラシー		2		
	現代社会論		2		
小計 (7 科目)	0	12	0		

② 専門教育科目

科目区分	授業科目の名称	単位数			履修単位		
		必修	選択	自由			
基本科目	工芸概論	2			美術工芸科目の うち 48 単位以上 を修得のこと (但し、基本科目 目から、選択科目 目 10 単位以上、 基幹科目及び展 開科目において 選択科目 26 単 位以上を選択の こと)		
	建築概論		2				
	伝統工芸概論	2					
	構成基礎演習		1				
	伝統住居概論		2				
	色彩学		2				
	日本美術史	2					
	素描		2				
	デザイン概論		2				
	社寺建築概論		2				
	西洋美術史		2				
	東洋美術史		2				
	伝統絵画技法 I		2				
	建築計画 I		2				
	建築構造力学 I		2				
	文化財概論		2				
	文化財保存概論		2				
	小計 (17 科目)	6	27	0			
	美術工芸科目	色彩理論演習		2			美術工芸科目の うち 48 単位以上 を修得のこと (但し、基本科目 目から、選択科目 目 10 単位以上、 基幹科目及び展 開科目において 選択科目 26 単 位以上を選択の こと)
		伝統住居論		2			
		デザイン作図演習		2			
デザインと法規			2				
伝統絵画技法 II			2				
伝統空間論			2				
伝統建築環境学			2				
文献・絵画史料概論			2				
伝統構造学			2				
伝統建築図 (基礎)			2				
IT 活用応用演習			2				
コンピュータデザイン演習			2				
建築計画 II			2				
建築一般構造 I			2				
建築材料			2				
建築法規			2				
建築構造力学 II			2				
建築環境工学			2				
文化財修理論			2				
文化財マネジメント論			2				
インテリア設計			2				
小計 (21 科目)	0	42	0				
展開科目	伝統工芸産業工学		2		必修 34 単位を 修得のこと		
	伝統工芸材料科学		2				
	工芸経営論		2				
	立体造形		2				
	伝統文様		2				
	古文書解読演習 I		1				
	伝統建築図 (応用)		2				
	室内意匠論		2				
	古文書解読演習 II		1				
	建築設備		2				
	建築一般構造 II		2				
	建築施工法		2				
	公共デザイン論		2				
	専門演習		2				
小計 (14 科目)	0	26	0				
専門演習・実習科目	芸術導入演習	2			必修 34 単位を 修得のこと		
	芸術導入実習	2					
	造形基礎演習 I	2					
	造形基礎演習 II	2					
	工芸・デザイン基礎実習 I	2					
	工芸・デザイン基礎実習 II	2					
	専門実習 I	2					
	専門実習 II	2					
	専門実習 III	2					
	プロジェクト演習 I	2					
	プロジェクト演習 II	2					
プロジェクト演習 III	2						
卒業制作研究	4						
卒業制作・論文	6						
小計 (14 科目)	34	0	0				

以上、合計 124 単位以上を修得のこと

学則 別表第3 工学学部（建築学科）の授業科目の種類、単位数等（第25条、第27条及び第48条関係）

① 基礎教育科目

科目区分	授業科目の名称	単位数			履修単位
		必修	選択	自由	
教養科目	歴史学		2		22 単位以上を修得のこと
	森林学概論		2		
	美学		2		
	技芸と文学		2		
	栄養学入門		2		
	生涯学習論		2		
	生活と法律		2		
	博物館概論		2		
	生物と環境		2		
	人と農業		2		
	科学と芸術		2		
	工芸と経済		2		
	伝統と学び		2		
	哲学		2		
	教育学		2		
	世界文化遺産論		2		
	宗教史		2		
	地域社会論		2		
	人間関係の科学		2		
	人間関係の心理臨床		2		
	表現技術論		2		
	初年次演習		2		
小計 (22 科目)	0	44	0		
伝統文化科目	日本工芸美術史	2			必修4 単位を含む8 単位以上を修得のこと
	京都学	2			
	伝統芸術入門 I	1			
	伝統芸術入門 II	1			
	伝統芸術展開 I	1			
	伝統芸術展開 II	1			
	日本文化史	2			
	京都学演習 I	2			
	京都学演習 II	2			
小計 (9 科目)	4	10	0		
コミュニケーション科目	日本語表現法		1		必修2 単位を含む6 単位以上を修得のこと
	英会話 I	1			
	美術工芸英語	1			
	英会話 II	1			
	英語コミュニケーション	1			
	情報基礎演習	2			
	総合コミュニケーション	1			
小計 (7 科目)	2	6	0		
キャリア形成科目	しごと論 I		2		6 単位以上を修得のこと
	しごと論 II		2		
	社会活動 I		1		
	社会活動 II		1		
	インターンシップ		2		
	メディアリテラシー		2		
	現代社会論		2		
小計 (7 科目)	0	12	0		

② 専門教育科目

科目区分	授業科目の名称	単位数			履修単位		
		必修	選択	自由			
基本科目	工芸概論		2 ^(※)		(※) 平成 28 年度入学生についてのみ「工芸概論」を必修とし「建築概論」は選択とする。		
	建築概論	2 ^(※)					
	伝統工芸概論	2					
	構成基礎演習		1				
	伝統住居概論		2				
	色彩学		2				
	日本美術史	2					
	素描		2				
	デザイン概論		2				
	社寺建築概論		2				
	西洋美術史		2				
	東洋美術史		2				
	伝統絵画技法 I		2				
	建築計画 I		2				
	建築構造力学 I		2				
	文化財概論		2				
	文化財保存概論		2				
	小計 (17 科目)	6	27	0			
	美術工芸科目	色彩理論演習		2			美術工芸科目のうち 51 単位以上を修得のこと (但し、基本科目において選択科目 11 単位以上、基幹科目において選択科目 14 単位以上、展開科目において選択科目 14 単位以上を選択のこと)
		伝統住居論		2			
		デザイン作図演習		2			
		デザインと法規		2			
発想と表現			2				
伝統絵画技法 II			2				
社寺建築論			2				
伝統空間論			2				
伝統建築環境学			2				
文献・絵画史料概論			2				
伝統構造学			2				
伝統建築図 (基礎)			2				
IT 活用応用演習			2				
コンピュータデザイン演習			2				
建築計画 II			2				
建築一般構造 I			2				
建築材料			2				
建築法規			2				
建築構造力学 II			2				
建築環境工学			2				
文化財修理論			2				
文化財マネジメント論			2				
小計 (22 科目)	0	44	0				
展開科目	古文書解読演習 I		1		必須 11 単位を修得のこと		
	伝統建築図 (応用)		2				
	室内意匠論		2				
	古文書解読演習 II		1				
	伝統建築論 I		2				
	伝統建築論 II		2				
	伝統建築図 (発展)		2				
	雛形製作		2				
	建築計画 III		2				
	建築計画 IV		2				
	建築設備		2				
	建築一般構造 II		2				
	建築構造力学 III		2				
	建築施工法		2				
	公共デザイン論		2				
	専門演習		2				
小計 (16 科目)	0	30	0				
工芸基礎系	工芸実習導入 (建築デザイン)	3			必須 11 単位を修得のこと		
	工芸実習基礎 I (建築デザイン)	4					
	工芸実習基礎 II (建築デザイン)	4					
小計 (3 科目)	11	0	0				
建築デザイン系	建築デザイン演習 I		4		いずれかの領域のうち指定された 14 単位を修得のこと		
	建築デザイン演習 II		6				
	建築デザイン演習 III		4				
	小計 (3 科目)	0	14	0			
伝統建築系	伝統建築専門実習 I		4		必須 6 単位を修得のこと		
	伝統建築専門実習 II		6				
	伝統建築専門実習 III		4				
小計 (3 科目)	0	14	0				
共通コース	卒業制作	6			必須 6 単位を修得のこと		
	小計 (1 科目)	6	0	0			

以上、合計 124 単位以上を修得のこと

別表第4 博物館学芸員の資格取得に必要な授業科目・単位数（第25条第4項及び第39条関係）

科目区分	授業科目の名称	単位数			履修単位
		必修	選択	自由	
博物館学芸員養成科目	生涯学習論		2		学芸員資格取得に必要な19単位を修得のこと
	博物館概論		2		
	博物館経営論			2	
	博物館資料論			2	
	博物館資料保存論			2	
	博物館展示論			2	
	博物館情報・メディア論			2	
	博物館教育論			2	
	博物館実習			3	
	小計（9科目）	0	4	15	

■ 実務経験のある教員等による授業科目一覧

以下の授業科目は、実務経験のある教員等が担当しています。

詳細は各シラバスを参照してください。

no	名称	単位	分類	主担当	
1	京都学	2	共通	担当:新谷 裕久	オムニバス
2	しごと論 I	2	共通	担当:中井川 正道	オムニバス
3	しごと論 II	2	共通	担当:安藤 眞吾	オムニバス
4	伝統工芸概論	2	共通	担当:浅見 武	オムニバス
5	工芸概論	2	専門:美術工芸	担当:玉村 嘉章	オムニバス
6	文化財修理論	2	専門:美術工芸	担当:小林 泰弘	オムニバス
7	伝統工芸産業工学	2	専門:美術工芸	担当:遠藤 公誉	オムニバス
8	伝統工芸材料科学	2	専門:美術工芸	担当:浅見 武	オムニバス
9	建築概論	2	専門:建築	担当:種村 俊昭	
10	構成基礎演習 (Cクラス)	2	専門:建築	担当:種村 俊昭	
11	建築計画 I	2	専門:建築	担当:人見 将敏	
12	建築計画Ⅲ	2	専門:建築	担当:森重 幸子	

講義名	京都学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新谷 裕久	KYOB I 工芸学部

到達目標	「京都市行政」を通じて日本文化の中心である京都の伝統と文化を学ぶ。また、京都の大学の学生として地域発展に結びつく連携の重要性について学ぶ。
授業概要	京都は歴史に育まれた多彩な文化が生活の中に息づいている。国内外から年間5千万人を超える観光客が訪れる、京都の奥深い魅力に触れるための、具体的な体験メニューや情報収集法などについて学ぶ。本学は、京都市と「包括連携協定」を結んでおり、地域連携の意義について理解を深める。授業はオムニバス方式であり、京都市の多岐にわたる分野（行政の総合企画局、産業観光局、都市計画局、文化市民局、保健福祉局、消防局、東山区役所、美術館等）の職員がゲストスピーカーとして登壇し、京都について総合的な理解を深める。 工芸学部ディプロマポリシー1、2に該当する。
授業計画 授業内容	全15回(オムニバス方式) ※第2回～14回については、京都市の担当部門の職員がゲストスピーカーとして登壇 第1回 京都国立博物館・京の大仏について／事務局長 植田義雄 第2回 「大学のまち京都・学生のまち京都」の推進／総合企画局総合政策室大学政策担当 第3回 文化庁の京都への全面的な移転に向けて／総合企画局文化庁移転推進室 第4回 留学生施策の推進／総合企画局総合政策室大学政策担当 第5回 これからの京都観光～持続可能で満足度の高い国際文化観光都市へ～／産業観光局観光MICE推進室 第6回 時を超え光り輝く京都の景観づくり／都市計画局都市景観部景観政策課・広告景観づくり推進室 第7回 都心再生のまちづくり／都市計画局まち再生・創造推進室 第8回 京都市の文化財保護について／文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課 第9回 わたしたちの伝統産業／産業観光局クリエイティブ産業振興室 第10回 SDGs（持続可能な開発目標）とは？／総合政策局総合政策室SDGs・市民協働推進室担当 第11回 美術館とは何か／文化市民局文化芸術都市推進室 美術館 第12回 みやこユニバーサルデザインをみんなで考え、進めよう！／保健福祉局障害保健福祉推進室 第13回 家族を守る、地域を守る消防団 /消防局総務部消防団課 第14回 東山区のまちづくり 山紫水明の都 結び合う心 東山の未来／東山区役所地域力推進室 第15回 まとめ「京都美術工芸大学は京都でなにをするのか？」／学長 新谷裕久 ※テーマ、日程等は都合により変更となる場合があります。
成績評価	受講態度（10%）、毎回講義中に実施する小レポート（90%）をもって評価する。 受講態度は、遅刻、レポートの提出遅れなどが該当する（減点方式）。 原則、レポート提出のない場合は欠席とみなす。公欠による欠席の場合は、追レポートにより評価を行う。
教科書	講義ごとに事前に資料を配布する（クラスルームに添付）。
参考書 参考資料	京都市ホームページ（ www.city.kyoto.lg.jp ）
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話聞きながら要点を箇条書きでノートに取るように努める。 クラスルームで資料の配布、出席管理、小レポートの提出等を行うので、パソコンを持参すること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 予習は、各テーマごとの「京都市ホームページ」等をチェックしておくこと。また、事前に講義資料を配布するので目を通し、質問等があれば整理しておくこと。 復習は、各テーマごとの講義ノートと配布された資料を整理し、理解しておくこと。

関連科目	京都学演習Ⅰ、社会活動Ⅰ、社会活動Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	授業開始前に、前回の小レポートの総評ならびに質問に対する回答等を行う。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	CRA-TR102L

講義名	しごと論 I		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 工芸学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「しごと」の多様性とその意義を理解する。 ・自身の将来の「しごと」について思考する。
授業概要	<p>さまざまな仕事での貴重な経験談を通して、人の心のありようを知ることや、知恵、努力の様を学ぶ。</p> <p>工芸学部のディプロマポリシー 1、2 に該当する。</p>
授業計画 授業内容	<p>オムニバス形式／全15回</p> <p>第1回 新谷 裕久（大学企画・広報） 第2回 宮本 貞治（木工） 第3回 三木 表悦（漆芸家） 第4回 浜田 泰介（画家） 第5回 コシノ・ジュンコ（デザイナー） 第6回 阿部 祐二（報道リポーター） 第7回 宮沢 孝幸（京都大学 ウイルス・再生医科学研究所） 第8回 細尾 真孝（西陣織） 第9回 国広 ジョージ（建築） 第10回 西堀 耕太郎（伝統工芸） 第11回 堀木 エリ子（和紙デザイナー） 第12回 大西 英玄（清水寺成就院住職） 第13回 今井 政之（陶芸家） 第14回 高田 光雄（建築家） 第15回 中井川 正道（環境デザイン）</p> <p>※順番は前後する場合があります ※講師の都合により、他の講師と入れ替える場合があります</p>
成績評価	毎回の小レポート80%、期末試験（論述形式）20%によって評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	授業を通して適宜紹介する。
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話聞きながら要点を箇条書きでノートに取るように努めること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。 想定範囲内において各講師の仕事内容について調べておく。 講義後は分からなかった内容や用語などを調べて講義の内容を把握する。
関連科目	3年次には引き続き「しごと論II」を受講することが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	試験の解答・解説等を試験終了後にweb掲示板に公開する。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	CRA-CA101L

講義名	しごと論Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
教授	◎ 安藤 真吾	KYOBI 工芸学部

到達目標	将来の就職において、学科、コースの専門性をどのように活かしていくのか。就職への助言にとどまらず、改めて仕事に向かうべく姿勢を再認識させ、社会に対して新たな視点をもつ機会とする。
授業概要	1年次の「しごと論Ⅰ」では、新入生ということで具体的にイメージすることのできなかった社会人としての自覚の高揚を改めて3年次に実施する。美術工芸、建築の実務家教員によるオムニバス方式授業として、教員の専門的テーマから具体的なイメージを与えることにより、将来の就職への方向性を明確にする。 工芸学部のディプロマポリシー 1、2に該当する。
授業計画 授業内容	オムニバス方式 / 全 15 回 第 1 回 (新谷 裕久) ガイダンス、防災・安全衛生管理について 第 2 回 (高田 光雄) 建築計画について 第 3 回 (浅見 武) 陶芸について 第 4 回 (井上 年和) 歴史的建造物の保存修理について 第 5 回 (小林 泰弘) 文化財について 第 6 回 (中井川正道) 環境デザインについて 第 7 回 (遠藤 公誉) 漆芸について 第 8 回 (岡北 一孝) 西洋の歴史的建造物の改修について 第 9 回 (玉村 嘉章) 木工について 第 10 回 (安田 光男) ミラノでの「しごと」について 第 11 回 (山内 貴博) 建築とランドスケープについて 第 12 回 (人見 将敏) 建築設計と社会との関わりについて 第 13 回 (井上 晋一) 集合住宅の調査と設計について 第 14 回 (津村 健一) 美術と造形について 第 15 回 (安藤 真吾) ものづくりデザインについて、総括
成績評価	毎回の小レポート (80%)、期末試験 (論述形式) (20%) によって評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話聞きながら、要点を箇条書きでノートに取るように努めること。
予習・復習指導	一講義 (1 コマ) に対して 4.5 時間の予習復習をすること。 配布資料や講義内容から、専門用語 (作品・作家・技法) について復習し、関連用語 (作品・作家・技法) についても調べるなど理解を深めておくこと。
関連科目	1 年次開講科目である「しごと論Ⅰ」に引き続き履修することが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	授業開始前に、前回の小レポートの総評ならびに質問に対する回答等を行う。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	GRA-CA302L

講義名	伝統工芸概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 浅見 武	KYOB I 工芸学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・工芸業界の裾野の広さを理解する。 ・各工芸について基本的な知識を身につける。 																																													
授業概要	<p>京都の伝統工芸業界の実務者による講演形式の授業を実施することで、工芸業界の裾野の広さを学ぶ。</p> <p>京都美術工芸大学ディプロマポリシー 1、2、3に該当する。</p>																																													
授業計画 授業内容	<p>オムニバス／全15回</p> <table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>浅見 武</td><td>概論</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>藤井 收</td><td>漆芸</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>小田 珠生</td><td>表具</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>内田 俊秀</td><td>伝統工芸品</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>八田 誠治</td><td>友禅・西陣</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>須藤 拓</td><td>鍍金・鍛金・彫金</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>若林 卯兵衛</td><td>仏壇・仏具①</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>若林 卯兵衛</td><td>仏壇・仏具②</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>綾部 之</td><td>京指物</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>小林 泰弘</td><td>文化財</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>野口 康</td><td>金箔</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>猪飼 祐一</td><td>京焼</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>石田 正一</td><td>竹工芸</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>渡邊 晶</td><td>刃物</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>浅見 武</td><td>陶芸 および 総括</td></tr> </table> <p>※順番が前後する場合があります。</p>	第1回	浅見 武	概論	第2回	藤井 收	漆芸	第3回	小田 珠生	表具	第4回	内田 俊秀	伝統工芸品	第5回	八田 誠治	友禅・西陣	第6回	須藤 拓	鍍金・鍛金・彫金	第7回	若林 卯兵衛	仏壇・仏具①	第8回	若林 卯兵衛	仏壇・仏具②	第9回	綾部 之	京指物	第10回	小林 泰弘	文化財	第11回	野口 康	金箔	第12回	猪飼 祐一	京焼	第13回	石田 正一	竹工芸	第14回	渡邊 晶	刃物	第15回	浅見 武	陶芸 および 総括
第1回	浅見 武	概論																																												
第2回	藤井 收	漆芸																																												
第3回	小田 珠生	表具																																												
第4回	内田 俊秀	伝統工芸品																																												
第5回	八田 誠治	友禅・西陣																																												
第6回	須藤 拓	鍍金・鍛金・彫金																																												
第7回	若林 卯兵衛	仏壇・仏具①																																												
第8回	若林 卯兵衛	仏壇・仏具②																																												
第9回	綾部 之	京指物																																												
第10回	小林 泰弘	文化財																																												
第11回	野口 康	金箔																																												
第12回	猪飼 祐一	京焼																																												
第13回	石田 正一	竹工芸																																												
第14回	渡邊 晶	刃物																																												
第15回	浅見 武	陶芸 および 総括																																												
成績評価	毎回実施する小レポート及び最終レポートにより評価する。																																													
教科書	各講義の担当教員が必要に応じて資料を配布する。																																													
参考書 参考資料	<p>工芸の見かた・感じかた(東京国立近代美術館工芸課：編) 淡交社</p> <p>明日への伝統工芸(浅見 薫著) 財京都伝統工芸産業支援センター</p> <p>[その他必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する]</p>																																													
履修上の注意	各講師が指示する内容のレポートを提出する。																																													
予習・復習指導	<p>(内容)各講義の担当教員の略歴や特徴、用語や作品など、重要と覚えることについて調べること。</p> <p>(時間)講義1コマに対して4.5時間の事前学習をすること。</p>																																													
関連科目	同じく必修科目である「工芸概論」と併せて工芸の知識を深める。																																													
課題に対するフィードバックの方法	レポートに含まれる質疑応答については、各講義の担当教員からの情報をまとめて総括の時間に行う。																																													
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当																																													
科目ナンバリング	GRA-BA103L																																													

講義名	工芸概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 玉村 嘉章	K Y O B I 工芸学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広く工芸全般の意味を理解する。 ・ 工芸に対する広い視野を身につける。
授業概要	<p>広く工芸の意味を理解すると共に、古くから伝わる工芸が世界のそして日本の文化としていかに我々の生活に定着しているかを各専門分野の切り口をとおして論じる。 美術工芸学科のディプロマポリシー1、2、3に該当する</p>
授業計画 授業内容	<p>オムニバス / 全 15 回</p> <p>第 1～ 3回 陶磁器業界の近況と今後を概観すると共に、「ものづくり」の変遷を成形技法、加飾技法、素材などを通じて解説し、工芸への理解を深める（横山直範）</p> <p>第 4～ 7回 物造りという観点から時代をさかのぼり彫刻作品、仏像彫刻作品が、生活に定着し馴染んできたか、映像、写真資料を参考に学ぶ（青木太一）</p> <p>第 8～10回 木工の技術・材料・デザイン等の解説。現在活躍している工芸家の作品・映像等を通して多様な工芸のスタイルを紹介する（玉村嘉章）</p> <p>第11～14回 伝統的な漆工芸品の歴史、構造、制作技法、諸道具について、また漆工芸を支える素材の内、主に国産漆の現状について概略を説明する（遠藤公誉）</p> <p>第 15 回 総括（玉村嘉章）</p> <p>※順番が前後する場合や担当者が変更になる可能性があります。</p>
成績評価	複数回実施する小レポート及び最終レポートにより評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	『工芸の見かた感じ方』（東京国立近代美術館工芸課編淡交社）
履修上の注意	期末時に、講師の中から一人を選び、その講師の担当した講義に関する最終レポートを提出する。
予習・復習指導	1コマに対し4.5時間の復習をする事。 配布資料や講義内容から、専門用語（作品・作家・技法など）について復習し、関連用語（作品・作家・技法など）についても調べるなど理解を深めておくこと。
関連科目	「伝統工芸概論」
課題に対するフィードバックの方法	小レポートのフィードバックを次回以降の講義内で行う
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	CRA-BA101L

講義名	文化財修理論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小林 泰弘	KYOBI 工芸学部

到達目標	文化財修理の歴史とそこから生まれてきた修復の理念や理論を理解し、これらの修理技術の修得や、実践における指針を得る。
授業概要	文化財の保存と活用は、将来のわが国の文化の向上発展の基礎をなすものである。長い歴史のなかでわが国の文化財がどのような方法、理念に基づいて修理が行われてきたのか、その過去と現在を理解するとともに、未来に伝えていくべき文化財修理の課題を考察する。 美術工芸学科ディプロマポリシーの①、③に該当する。
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 小林 泰弘 (修理とは何か) 第2回 小林 泰弘 (修理の理念) 第3回 高橋 利明 (仏像修復師) 第4回 青木 太一 (仏像彫刻) 第5回 藤井 収 (漆工) 第6回 玉村 嘉章 (木工) 第7回 小林 泰弘 (仏像修復) 第8回 小林 泰弘 (仏像修復 他) 第9回 小田 珠生 (表具) 第10回 内田 俊秀 (民具) 第11回 八田 誠治 (染織) 第12回 川原 博一 (金属) 第13回 大上 直樹 (建築) 第14回 小林 泰弘 (複製) 第15回 小林 泰弘 (総評)</p> <p>※順番は前後することがあります。</p>
成績評価	授業中の態度 (30%)、レポート等の習得度 (70%) を基本に、総合的に判断する
教科書	必要に応じて適宜資料を配布
履修上の注意	静かに履修をすること。
予習・復習指導	復習をすることで講義を深く理解するように努めること (3時間)。
関連科目	「文化財保存概論」「文化財概論」等の講義系科目
課題に対するフィードバックの方法	授業中の質疑応答。レポート等の質問には次回以降に回答する。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	CRA-MA221L

講義名	伝統工芸産業工学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 遠藤 公誉	KYOBI 工芸学部

到達目標	産業としての伝統工芸について、業種ごとに成り立ちや技術的・意匠的特色について、また世の中での位置づけなど、概要を認識し理解する。ものづくりの高度な技について、工学的な側面からの理解を深める。
授業概要	<p>伝統工芸産業について、その定義や業種ごとの特色、地域ごとの特色、問題点などについて多岐にわたり論じる。様々な技術を研究する応用科学である「工学」の立場より、伝統工芸・伝統産業について考察する。伝統工芸品を成立させる構造、意匠、技法、材料などの諸要素と、伝統工芸の産地を取り巻く地理的条件などのさまざまな要素の、密接な関連性について学び、工芸に対し更に認識を深める。</p> <p>関連するディプロマポリシー：京都美術工芸大学ディプロマポリシー 1・2 美術工芸学科のディプロマポリシー 1・2・3 に係る</p>
授業計画 授業内容	<p>全15日／週1日</p> <p>第1週 漆芸 第1回 大規模漆器産地 輪島について その1 第2週 漆芸 第2回 大規模漆器産地 輪島について その2 第3週 彫刻 第1回 仏師による仏像修復 第4週 彫刻 第2回 彫刻技法、加飾技法について 第5週 陶芸 第1回 素材と技法 第6週 陶芸 第2回 陶磁器業界の現状と今後 第7週 木工 第1回 木工・家具産業の歴史と構造 第8週 木工 第2回 五大家具産地の成り立ちと特徴 第9週 木工 第3回 機械化による木工業界の変化 第10週 漆芸 第3回 漆芸の道具 漆刷毛の構造と使用について 第11週 諸工芸 第4回 江戸時代のものづくりと機械工学の融合 その1 第12週 諸工芸 第5回 江戸時代のものづくりと機械工学の融合 その2 第13週 文化財 第1回 文化財について 第14週 文化財 第2回 文化財の現状とこれから 第15週 諸工芸 第3回 ある伝統産業の現代産業への転換について 総括</p>
成績評価	講義ごとの小レポートの内容によって評価する。
教科書	なし
参考書 参考資料	<p>「なぜ漆はジャパンと呼ばれたか」 中室勝郎著 六耀社 「近代漆器の産業技術と構造」 北野信彦著 雄山閣 その他講師ごとに参考書などを紹介する。</p>
履修上の注意	オムニバス形式のため、担当する教員により配布資料が無い場合がある。講義の内容を注意深く聴講することは勿論であるが、分野が多岐にわたるため、予習時などに自主的に予備知識を獲得しておくこと。
予習・復習指導	1コマに対して予習に1.5時間、復習に3時間を目安とすること。 参考書「なぜ漆はジャパンと呼ばれたか」第三章 なぜ、輪島に輪島塗があるのか P115～173 を事前に読んでおくこと。
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「伝統工芸材料科学」「文化財修理論」
課題に対するフィードバックの方法	最終回において、レポートの内容について講評を行う。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当

科目ナンバリング

CAC-DE 301 L

講義名	伝統工芸材料科学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 浅見 武	KYOB I 工芸学部

到達目標	伝統的な「ものづくり」を科学の眼でみる視点を持つことを涵養する。
授業概要	伝統工芸の世界で用いられる材料は、長い間に培われた職人の経験と勤によって吟味されてきた歴史を持つ。現代の材料科学の観点から、伝統的な「ものづくり」に用いられた材料と技術を調査研究していくと、その選択の妥当性に改めて驚かされることが多い。本講では、伝統的な様々な素材を科学的な眼で見えていくことが新たな発見につながることを様々な事例で紹介する。 美術工芸学科のディプロマポリシー2、3に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 横山 直範（陶芸）『陶芸材料についてⅠ』 第2回 横山 直範（陶芸）『陶芸材料についてⅡ』 第3回 宮本 貞治（木工）『木工材料について』 第4回 三木 表悦（漆芸）『漆芸材料について』 第5回 中井川 正道（デザイン）『舗装Ⅰ』 第6回 中井川 正道（デザイン）『舗装Ⅱ』 第7回 安藤 真吾（デザイン）『塗装』 第8回 大上 直樹（伝統建築）『木材』 第9回 大上 直樹（伝統建築）『木材以外の伝統建築材料』 第10回 岡 達也（デザイン）『紙』 第11回 津村 健一（デザイン）『合成樹脂』 第12回 渡邊 俊博（デザイン）『カッティングシートの表現方法Ⅰ』 第13回 渡邊 俊博（デザイン）『カッティングシートの表現方法Ⅱ』 第14回 種村 俊昭（建築デザイン）『打放し仕上げとタイル』 第15回 種村 俊昭（建築デザイン）『石とガラス』
成績評価	毎回実施する小レポート及び最終レポートにより評価する。
教科書	特に使わない。
参考書 参考資料	授業中適宜紹介する
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して1時間の復習をすること。授業内容を深く理解するために、復習を怠らないこと。
課題に対するフィードバックの方法	小レポートのフィードバックを次回以降の講義内で行う。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	CAC-DE 3 03 L

講義名	建築概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 種村 俊昭	KYOBU 工学部
講師	岡北 一孝	KYOBU 工学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「建築は住宅から始まり住宅に終わる」と言われるように「住空間」を中心に広く建築の意味を認識、理解する。 ・建築に対する幅広い視野を身につける。
授業概要	<p>建築は、人間の「生活（生き生きした活動）」を支える「衣食住」の一要素として古くから時代や地域に即して発展してきた。日本にも世界にも、文化として受け継がれた伝統的な建築が魅力を醸し出している地域や、新しい建築による快適で魅力的な都市もあるが、改善すべき環境もある。広く建築の意味を理解すると共に、建築が世界のそして日本の文化としていかに我々の生活に定着しているかを最も身近な「住空間」を中心に各専門分野の関連科目の導入を兼ねて概説する。建築ディプロマポリシーの1に係る。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 ガイダンス、建築とは、設計とは、建築の学びの基本について 第2回 建築の生産：建築関連職業と知識・技術・技能 第3回 建築の歴史・伝統建築：どのように生まれ、どのように展開してきたか 第4回 建築の定義・種類・分類・範囲、関連書籍の紹介 第5回 建築の基本的要件：機能・性能・意義： 第6回 建築教育・学習・実習・演習： 第7回 建築計画・設計（1）：建築計画 第8回 建築計画・設計（2）：建築設計（デザイン） 第9回 建築計画・設計（3）：地域・都市計画・地域・都市デザイン 第10回 建築環境工学・建築設備 第11回 建築一般構造・建築力学 第12回 建築材料 第13回 建築施工・積算・各種実験 第14回 建築法規・その他の規制 第15回 その他：関連教養学問・総括</p> <p>※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。</p>
成績評価	<p>「小レポート（小テスト）＋期末試験（期末レポート）」により成績評価を行う。 授業態度（出席も含め30%）も考慮し、最終成績とする。</p>
教科書	「住空間計画学」学芸出版社、自作プリント
参考書 参考資料	各座学の教科書、配布資料、授業中に紹介
履修上の注意	<p>基礎教養として経済学、社会学、法学などの基礎を理解し、社会の仕組みを（ある程度）理解していること、現代的問題・課題をニュース、新聞等から日々情報を得て、自らの課題として認識、意識していることが重要である。（「認識力」）また、豊かな生活実現、都市環境のあり方などに興味を持ち、いろいろな場面、機会などを捉え、豊かな生活実現と都市・街などのあり方、情景などについて日々発見する心掛けが重要である。（「観察力」＋「構想力」）</p>
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	建築各分野の関連科目の導入を兼ねている。
課題に対するフィードバックの方法	中間レポート（テスト）は講義中に結果報告を行い、期末レポート（テスト）は掲示等で結果報告を

	行う。
教員の実務経験	32年間の各種建築計画・設計実務経験を有する。また、大学の専任教員として11年間の実務経験を有する。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	CRA-BA 1 02 L

講義名	構成基礎演習 (Cクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 種村 俊昭	KYOB I 工芸学部
准教授	河村 大助	KYOB I 工芸学部
講師	人見 将敏	KYOB I 工芸学部
講師	永井 秀幸	KYOB I 工芸学部
助教	江本 弘	KYOB I 工芸学部
特任教授	小椋 吉隆	KYOB I 工芸学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・造形物の様々な特性を理解する。 ・平面・立体構成の感覚、空間把握能力を養う。 ・自身の考えを描写を通じて具現化し、他者に伝える能力を習得する。
授業概要	<p>本科目では造形の基礎演習として、形を生み出す上で最も重要な線の描き方と構成の方法を、様々な事物を描写する中で体得し、かつ描き出したものから発見的に考察していく。まず自身の身近なものを描くことから始め、次に平面での構成の練習、そして平面から立体空間構成への展開、最後に総合的な課題として、家具（椅子）による立体空間を構成しその描写を行う。</p> <p>工芸学部のディプロマポリシーの1, 2に係る。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 オリエンテーション：授業の目標や留意点等の説明 起こし絵課題1：課題説明、実測説明</p> <p>第2回 起こし絵課題2：実測図の作成</p> <p>第3回 起こし絵課題3：起こし絵の作成</p> <p>第4回 起こし絵課題4：作品発表、スケッチ課題1：作図基礎、添景の描写</p> <p>第5回 スケッチ課題2：インテリアスケッチと構成への発展</p> <p>第6回 平面構成1：点と線</p> <p>第7回 平面構成2：点・線・面・色彩</p> <p>第8回 総合課題1：椅子のデザイン1</p> <p>第9回 総合課題2：椅子のデザイン2</p> <p>第10回 総合課題3：椅子のデザイン3</p> <p>第11回 総合課題4：椅子のデザイン4・発展</p> <p>第12回 立体課題1：立体の構成1</p> <p>第13回 立体課題2：立体の構成2</p> <p>第14回 立体課題3：光の箱1</p> <p>第15回 立体構成4：光の箱2・総評</p>
成績評価	受講態度（20%）、各課題提出物の評価（80%）
教科書	フランシス・D・K・チン著、太田邦夫訳『建築ドローイングの技法』
参考書 参考資料	<p>必要に応じて参考資料を配布する。</p> <p>その他の参考書として、</p> <p>小沢剛、塚本由晴著『線の演習 建築学生のための美術入門』</p> <p>小嶋一浩、伊藤香織、他編著『空間練習帳』</p>
履修上の注意	毎回の授業に積極的に参加すること。また、提出期限を厳守すること。
予習・復習指導	各回1.5時間の予習復習をすること。

	授業内に終了しなかった作品の完成、ならびにより良い作品作りに向けて作業を行うこと。
関連科目	「工芸実習導入」「工芸実習基礎Ⅰ」「デザイン作図演習」
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CRA-BA 1 04 S

講義名	建築計画 I		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 人見 将敏	KYOBU 工芸学部
特任教授	種村 俊昭	KYOBU 工芸学部

到達目標	<p>建築を具体的な形にしていく計画・設計手法とそのために必要となる基礎的知識を学び、その知識が応用できることが必要最低限の目標である。</p> <p>風土や建築環境を調査結果から読み取り、人々の生活・行動・意識とのかかわりを考慮しながらコンセプトを立案し、小規模な建物の機能図を描き、プランのスケッチができるようになるための知識を習得することが到達目標とする。</p>
授業概要	<p>建築に携わる者にとって基礎的で必須の教科。建築そのものを理解するための基礎知識や建築計画・設計に要求される知識・技術、計画・設計手法を体系的に学習する。</p> <p>前半において計画の基礎となる人間の知覚と行動、建築空間の性能、形態、後半において設計の基礎となる建築の計画手法、空間構成の技法、外部空間の構成手法、計画の表現技法などを学習する。建築設計実習・演習と関連した授業計画としている。建築学科のディプロマポリシーの1.2.3.4に係る。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 ガイダンス、建築計画の目的、意義など</p> <p>第2回 人間の知覚と行動1：（形態知覚の特性、心理環境と形態）</p> <p>第3回 人間の知覚と行動2：（人間の行動と形態）</p> <p>第4回 寸法と規模の計画1：（寸法の計画）</p> <p>第5回 寸法と規模の計画2：（単位空間の寸法）</p> <p>第6回 空間の性能1：（空間の機能、安全性）</p> <p>第7回 空間の性能2：（耐久性、経済性、省エネルギー）</p> <p>第8回 空間の形態：（地理的環境と形態、機能と形態）</p> <p>第9回 計画の技法1：（設計プロセス）</p> <p>第10回 計画の技法2：（空間構成のエレメント）</p> <p>第11回 空間構成の技法</p> <p>第12回 造形技法</p> <p>第13回 外部空間の構成と配置計画1：（外部空間のスケール、歩行空間の形態）</p> <p>第14回 外部空間の構成と配置計画2：（外部空間の構成、建物の配置形態）</p> <p>第15回 表現技法</p> <p>※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。</p>
成績評価	<p>「小レポート(小テスト)+期末試験(期末レポート)」により成績評価を行う。</p> <p>授業態度（出席も含め30%）も考慮し、最終成績とする。</p>
教科書	「現代建築学 新訂 建築計画1」 岡田光正著他 鹿島出版会
参考書 参考資料	第版3「コンパクト建築設計資料集成」 日本建築学会 丸善株式会社
履修上の注意	<p>基礎教養として社会学、心理学などの基礎を理解し、社会の仕組みを（ある程度）理解していること、建築に関わる現代的問題・課題をニュース、新聞等から日々情報を得て、自らの課題として認識していることも重要である。（「認識力」） また、人間の行動実態や、豊かな生活環境のあり方などに興味をもち、いろいろな場面、機会などを捉え、豊かな生活環境などのあり方、情景などについて日々発見する心掛けが重要である。（「観察力」）</p>
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	「工芸実習基礎Ⅰ、Ⅱ」、「建築デザイン演習Ⅰ、Ⅱ」、「建築計画Ⅱ、Ⅲ」

課題に対するフィードバックの方法	中間レポートは講義中に結果報告を行い、期末試験は掲示等で結果報告する。
教員の実務経験	32年間の各種建築計画・設計実務経験を有する。11年間の大学専任教員の実務経験を有する。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	CRA-BA 1 14 L

講義名	建築計画Ⅲ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
准教授	◎ 森重 幸子	KYOBI 工芸学部

到達目標	学校、美術館、図書館、ホールといった様々な建築物について、用途に応じて求められる計画的知識を身に着けるとともに、実例の分析を通じてそこで行われる人々の活動を豊かにする設計的な工夫について学ぶ。
授業概要	建築計画学の一般理論をビルディングタイプ別に講義する。また各種建築物の個別の計画手法について、具体的な建築家作品をあげながら解説する。複合施設や現代的な現象である変容についても言及し、今後の建築計画学のあり方についても展望する。 各自でも事例分析を行いレポートとしてまとめる。建築物の計画的な特徴について言語化することを通して、その建築物に求められる機能や、空間の豊かさ、計画的合理性など、多角的な観点から建築物を評価する力を養う。 建築学科のディプロマポリシーの1、2に該当する。
授業計画 授業内容	週1コマ×15回 第1回 ガイダンス、概論 第2回 文化施設:美術館・博物館・劇場(1) 第3回 文化施設:美術館・博物館・劇場(2) 第4回 文化施設:美術館・博物館・劇場(3) 第5回 教育施設:小学校、中学校(1) 第6回 教育施設:小学校、中学校(2) 第7回 教育施設:幼稚園、保育園 第8回 文化施設:図書館 第9回 事例分析、レポート発表 第10回 居住施設:集合住宅(1) 第11回 居住施設:集合住宅(2) 第12回 福祉施設:高齢者入居施設 第13回 福祉施設:病院 第14回 業務施設:オフィスビル 第15回 公共空間:外部空間
成績評価	期末テスト・小テスト(70%)とレポート及び学習状況(30%)により総合的に評価する。
教科書	川崎寧史他 『テキスト建築計画』学芸出版社
参考書 参考資料	『第3版コンパクト建築設計資料集成』(丸善)
履修上の注意	建築計画に関する事例研究をすることで、講義を深く理解するよう努めること。
予習・復習指導	一講義(1コマ)に対して4.5時間の予習復習をすること。 各回の授業の前に、参考書の『コンパクト建築設計資料集成』の該当する建築用途のページを読み予習すること。授業後に、教科書の該当する建築用途のページを読み復習すること。 建築を学ぶ学生としていろいろな建物に興味を持ち見学する事を勧める。
関連科目	「建築デザイン演習I、II」、「建築計画I、II」
課題に対するフィードバックの方法	レポートについてのフィードバックを講義時間内に行う。 小テストの解答・解説を授業時間内に行う。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	CAT-DE 2 16 L